

日本語教科書に収録された日中同形異義語についての一考察 —『新編日本語』を対象として—

趙乾¹, 上原徳子²

A Study of Homographs in Japanese and Chinese: What Was Recorded in a Japanese Textbook —The Case of A New Japanese Coursebook—

Zhao QIAN, Noriko UEHARA

はじめに

中国語と日本語の共通点の一つ挙げるならば、両言語とも漢字を使っていることだろう。実際に、日本語も中国語もたくさんの語彙が同じ「漢字」（簡体字と繁体字を問わず）で表記されている。許雪華（2014）によると、現在、日中同形語は12,000語以上存在しているという。数多くの同形語が存在しているからこそ、中国語を母語とする日本語学習者たちはより簡単に日本語を習得できると考えられてきた。確かに、中国語を母語とする日本語学習者にとって、これは有利な点である。

ところが、漢字の字形が同じであるといっても、必ずしもその意味までが完全に同じとは限らない。全く同じ意味を持つ同形語が大部分ではあるが、何らかの差異を持っている同形語も数多く存在している。しかし、中国語を母語とする日本語学習者は同形語を使用する際、母語の干渉により、その意味のずれを知らずに誤用を招いてしまう。これまでの研究で指摘されているように、学習者たちは同形語を習得・使用する際に、それらをあまり意識せずに中国語の語彙そのままの意味・用法で使用してしまうことがよくある。同形語は学習者にとって、メリットもデメリットもあるといえよう。

日中同形語の誤用は中国語を母語とする日本語学習者にとって大きな問題になっているため、同形語の研究はこれまで重視されてきた。しかし、数多く存在する同形語をどの視点から研究すべきかは難しい問題である。中国においては、日本語の学習は大学の日本語科であるのが主流で、大学で日本語を勉強する際には、一般的に日本語教材を使って語彙・文法などを習得する。その教科書は日本語を勉強し始めた学習者にとっては、「日本語への入り口」と言えるだろう。同形語の習得ももちろんここからだと推察できる。そのため、本稿は、中国の大学で使われている日本語教材から同形語を研究することに一定の価値があると考えた。

そこで、本稿は、日本語教科書（『新編日本語』1-4）から日中同形語を全て抽出し、その中に、中国語を母語とする日本語学習者にとって誤用しやすいO語に焦点を合わせて分析し、問

¹ 宮崎大学大学院 教育学研究科 日本語支援教育専修 2016年度修了生

² 宮崎大学 語学教育センター 准教授

題点を明らかにすることを目的としたい。なお、本稿に関する調査と統計は全て趙乾が行った。また、本稿は、2017年1月に宮崎大学教育学研究科修士課程日本語支援教育専修に提出された趙乾の修士論文「日中同形語に関する研究—『新編日本語』を中心に」にもとづき、上原徳子が全面的に構成に変更を加えたものである。

日中同形語の定義と分類

「同形語」といえば、字形が同じ語彙がイメージされる。しかし、実は字形が完全に同じ語数は極めて少ない。これでは同形語を定義する際に困難が生じる。

これまで、「同形語」の定義について、最も多く引用されているのは大河内康憲の説である。大河内康憲は「いずれがいずれを借用したかを問わず、双方同じ漢字（簡体字は問わない）で表記されるものを同形語とよぶ」と同形語の定義を一つの文で概括して述べた。大河内康憲（1992）は「同形語」に関する論述を次の五点にまとめる。

- ①日・中で字面が同じ単語である。
- ②借用関係を問わず、双方同じ漢字（簡体字は問わず）で表記されるもの。
- ③一字で音訓いずれにも使われるものは含まない。（山、人、大、小など）
- ④二字（ときには三字以上）の字音語で、表記のみならず、語構成が問題になるもの。（文化、経済、克服、普通など）
- ⑤語構成における共通性が同形語といわれる所以であり、したがって借用関係が問題になる。

大河内康憲の定義と論述は多くの同形語研究に影響を与えてきた。しかし、この五つの論述は非常にわかりにくい。さらに、第二点目で「借用関係を問わず」とあるが、五点目で「借用関係が問題になる」とも述べている。この点については、矛盾している。

大河内康憲の説を発展させ、中国人研究者潘鈞は「同形語を認定する三つの必須条件」を規定した。潘鈞（1995）の唱えた同形語の「三つの必須条件」は次のようにまとめられる。

- ①表記が同じである漢字（簡体字と繁体字の差異、送り仮名、形容動詞の語尾などの非漢字要素を無視する）
- ②共同の出自や歴史的なつながりを持っている言葉。
- ③現在中日両国の言語の中で共に使われている言葉。その中で、二字語が一番多い、ほかに三字語、四字語などがある。

この定義により、同形語の範囲が広がったといえるだろう。

次に、その分類である。

最も代表的な同形語の分類方法は文化庁の『中国語と対応する漢語』の分類方法だといわれる。文化庁（1978）は『中国語と対応する漢語』の中で、中国語母語話者への日本語教育を念頭に、10000語の中から約2000語を選び出し、中国語との対応関係から、同形語をS、O、D、Nの四種類に分類した。詳しくは以下のとおりである。

S語：日本語と中国語両言語で意味がほぼ同じ（same）だと考えられるもの。

O語：両言語で意味の一部は重なっているが（overlapping）、一部は異なっているもの。

D語：両言語で意味が全く異なる（different）もの。

N語：日本語にしか存在しない（nothing）もの。

これまでこの分類法が多くの研究で採用されてきた。

本稿が加えた日中同形語の定義について

日中同形語について考察を進めるためには、まず、「日中同形語は何か」という問題を明らかにしなければならない。前述の定義と分類に、本稿が加えた判断基準について述べておく。

現在、日中両国で使用されている漢字はそれぞれ異なった字体であるため、完全な「同形」の語彙の数は極めて少ない。これによって、実際に「同形語」を定義する際、曖昧な部分が多数存在していることがすでに指摘されている。先行研究では、同形語の定義についていくつかの説が出されており、本稿では、より理解しやすい潘鈞（1995）の定義を採用した。従って、以下の三つの条件に当てはまった場合、同形語と認めることとする。

- ①表記が同じである漢字。（簡体字と繁体字の差異、送り仮名、形容動詞の語尾などの非漢字要素を無視する）
- ②共同の出自や歴史的なつながりを持っている言葉。
- ③現在中日両国の言語の中で共に使われている言葉。

ただし、本稿は、「送り仮名」は和語を構成する時の不可欠な要素であり、無視できないと考えた。そのため、実際に同形語を判定する作業をする際に、このような語彙を排除した。例えば、日本語の「走る」と中国語の「走」は同形語とは認めなかった。以上が三つの条件に加えた判断基準である。

さらに、本稿では文化庁の分類法に基づき、O語をより詳しく分析するために、前述のO語を一層細かく分類した。

同じO語であっても、実際に『同形異義語辞典』（2007）をみると、細かな違いがある。『同形異義語辞典』は、語釈の前に、日本語・中国語の片方にしかその意味がない場合は[異]、双方に近い意味がある場合は[近]、同じ意味がある場合は[同]と記している。これによって、O語を一層細かく分類できると考えた。本研究独自の分類は以下のとおりである。

- A：双方に近い意味がある。（双方に[近]しか記していない）
- B：双方に近い・同じ意味があるが、日本語に異なる意味がある（双方に[近]あるいは[同]と記しているが、日本語に[異]とも記している）
- C：双方に近い・同じ意味があるが、中国語に異なる意味がある（双方に[近]あるいは[同]と記しているが、中国語に[異]も記している）
- D：双方とも異なる意味がある（双方に[近]あるいは[同]と記していると同時に、[異]も記している）

教材の選定と分析意義

この30年間中国でよく使用されている基礎段階での日本語教材については、『基礎日本語教程』、『総合日本語』、『新編日本語』、『新編基礎日本語』、『新大学日本語』、『みんなの日本語』などが挙げられるだろう（田中祐輔、2015）。中国では大学の所在地によって、使用される教材も異なっているのでその種類も多い。田中祐輔（2015）『現代中国の日本語教育史—大学専攻教育と教科書をめぐって』によると使用された日本語教科書は以下の通りである。

現行基礎段階精読用日本語教科書一覧

教科書名	作成者	出版社	出版年
『基礎日語教程』1-4	朱春躍、彭広陸	外語教学与研究出版社	1998-2001
『綜合日語』1-4	彭広陸、守屋三千代	北京大学出版社	2006-2010
『新編日本語（修訂版）』1-4	周平、陳小芬	上海外語教育出版社	2008-2010
『新編基礎日本語（修訂版）』1-4	孫宗光	上海訳文出版社	2004-2005
『新大学日本語』1-4	蔡全勝	大連理工大学出版社	2007

中でも、『新編日本語』は『大学日本語専攻基礎段階教育要綱』に基づいて作られた代表的な教材である。この教材は、1994年から現在まで使用されており、中国国内では使用期間が最も長い。発行部数は少なくとも37万冊ほどである（王静、2006）。『新編日本語』は、中国の大学日本語専攻学科の基礎段階の教材として、教育要綱に規定された発音、語彙、文法、句型などの日本語基礎知識を学生に教え、「聞く・話す・読む・書く・訳す」の五つの能力を訓練し、日本語を使用する初歩的な能力を身につけさせることを教育目標とする。現在、使用する大学として、上海外国語大学、重慶大学、天津外国語大学、広州外国語大学、南開大学など10ヶ所以上が挙げられ、使用されている地域も多岐にわたる。対象は、基本的に大学日本語科の一年生、二年生と規定されているが、実際のところ、それだけでなく、多くの日本語学習者がこの教材を使用している。またこの教材は中国の普通高等教育「十五」国家級企画教材に選ばれている。具体的に本研究に関わる部分を見てみると、語彙を解説する際、日中両言語を対照して作成されているため『みんなの日本語』のような日本語だけを掲載する教材と比較すると、日中同形語の研究に有用だといえる。

以上の理由で、本稿は『新編日本語』を分析対象として選定した。なお、今回使用したのは2011年3月発行の第1版（2014年第8回印刷）である。

分析方法

教材は学習に大切な役割を果たし、語彙は言語習得にとって極めて重要である。まず、研究対象とする教材がどのように日中同形語を説明しているのかについて検討しなければならない。本稿では、『新編日本語』という日本語教材の1-4冊（巻）の語彙リストに出ている日中同形語を分析対象とする。

具体的には次のような手順を採る。初めに、教科書の末尾にある新出語彙リストから、日中同形語をピックアップする。



* 『新編日本語』 第二册 pp.446 (趙による書き込みあり)

上の図は『新編日本語』第二冊の新出語彙リスト部分初めの2ページである。作業をする際は、このページを開き、最初の(あ)から最後の(わ)まで1つずつチェックし、本稿が採用する同形語の定義にしたがい、ふさわしいものを選んだ。

次に、文化庁の同形語分類法に基づき、主に『日中同形異義語辞典』(王永全, 小玉新次郎, 許昌福, 2007)を参考にし、囲んだものをS・O・Dの三種類にわけ、マークを付ける。ただし、『日中同形異義語辞典』に記載されていない語彙は『現代漢語詞典』、『日漢同形異義詞詞典』、『現代日漢漢日詞典』と『広辞苑』を参考にして判断し、N語は本稿では検討対象としないため除外した。

さらに、S・Dの二タイプを整理し、それぞれの表を作る。S語とD語は今回の研究の中心ではないため、詳細なものを作成しなかった。具体的には以下の通りである。

『新編日本語』 第二册 S語

愛	胃	衣	以外	胃潰瘍	以下	意識	以上	一号線	一国
一步	以来	入口	飲酒	印象	営業	営業部	衛星	液	枝
演奏	欧州	応対	大雨	大地震	大掃除	大幅	丘	億	温泉
温度	音量	海外	改革	会議	会議室	階級	解説	改善	開発
開発区	開放	顔色	価格	学習	確認	確保	花壇	学科	角
可能	紙	髪	上座	観客	観客席	関係	観光客	感謝	感動

乾杯	関連	記憶	期間	危機	企業	危険	傷	基本的	救出
球場	急速	急用	教育	競技	餃子	教材	競争力	兄弟	共同体
教養	巨大	距離	金額	勤勉	近代的	金融	区	空間	薬

『新編日本語』第二冊 D語

愛読書	青色	一年中	学部	菓子	記事	靴	工夫	怪我	研修
高校生	交差点	混雑	札	様	事情	事務	進行	深刻	走行
題名	多大	棚	中学生	無事	平和	変	娘	湯	用意
冷蔵庫	割	勘定							

また、中でもO語をより詳しく分析するために、独自にO語をさらに細かく四種類に分類し、教科書の中の漢語訳語と例文を対照させて、単独の表を作った。

O語の分類について、先行研究の中には同様にO語をさらに3種類に分類した分類方法がすでであった(同形類義語を、意味の一部分が重なるがほかの部分は異なっているもの、日本語のほうが中国語より意味が広いもの、中国語のほうが日本語より意味が広いもの、の三つに細分した)が、はっきりとした規準がなかった。本稿では、より明確に分類をした。具体的な分類方法は、前述の通りである。

- A: 双方に近い意味がある。(『日中同形異義語辞典』では双方に[近]しか記していない)
 B: 双方に近い・同じ意味があるが、日本語に異なる意味がある(双方に[近]あるいは[同]と記しているが、日本語に[異]とも記している)
 C: 双方に近い・同じ意味があるが、中国語に異なる意味がある(双方に[近]あるいは[同]と記しているが、中国語に[異]も記している)
 D: 双方とも異なる意味がある(双方に[近]あるいは[同]と記していると同時に、[異]も記している)

このように分類すると、より明確にできる。この分類法の効果については、この後の分析の中で詳しく触れる。

以下の表は、左から日本語、中国語訳、教科書中の例文をまとめたものである。

『新編日本語』第四冊 (O-B) 語

親子	父母与子女	親子が会うような気持ちで中国に来ました。
監督	监督, 导演	大林宣彦さんの監督で
姿勢	姿势, 态度	企業側も真剣に公害対策に取り組む姿勢をやっと見せ始めた。
自尊	自尊	科学と独立自尊の精神を教育の方針とした。
真実	事实, 真话, 真的, 实在在	歴史書が全部真実かどうかは学者の間でもいろいろ意見があります。
設置	设立, 设置	中国に設置されている外国の民間企業の中で、

素材	素材	日本料理は季節の素材の持ち味を生かし、
人数	人数	人数は読む人が一人と、
反省	反省, 重新考慮	「他人の飯は白い」とか言って反省させ、
百姓	農民, 庄稼人	百姓や町人が、
不明	不明, 不詳, 无能	作者は不明です。
本心	真心	必要ないというときの「いいですよ」でも本心なのか、遠慮なのかよくわかりません。

『新編日本語』第二冊 (O-C) 語

一環	一环, 一部分	研修生が訪問研修の一環として...
一周	绕一圈	一周すると、一時間半もかかります。
応用	应用	上海などの都市にも応用が可能だ。
関心	关心	人々から大きな関心もたれています。
完了	完了, 完事	カードをかざすだけで料金支払いが完了します。
機械	机械	機械が故障してしまったりした時は...
検討	研讨, 讨论	万さんの仕事を検討しておきますから...
高度	高度, 高級	経済高度成長期に入ると、
作業	作业, 工作	工場の作業内容の説明を聞き、
冊	本, 册	何冊まで借りられますか。
産業		
失敗	失败	昨日は失敗してしまいました。
十分	充足, 足够	十分に勉強ができなかった。
処理	处理	ごみ処理の問題もあります。
製造		

*O語をA、B、C、D四タイプに分類して作った表の例

上記の表の中で、語彙の中国語訳部分と例文欄が空いているものは、新出語彙リストに収録されていたものの本文の中に出てこなかったもの、そのため本文以外の説明で部分使用されているなど、詳しい説明がない語彙である。その理由が不明なものもある。

実際に上述の作業を行う際、本稿で採用した同形語の定義により、日中同形語の認定に曖昧さがある語彙が何種類も存在していたため、今回作成した表には収録しなかった。具体的には以下の通りである。

- ①日本語では一字で表記されるが、中国語では通常一字では使用されない語彙。

例：柿、稻、体、時、逆

これらの語は、中国語において、その漢字一字だけでも意味はわかる。しかし、実際に使用する際は、他の漢字と組み合わせ一つの語彙として使用するのが一般的である。例えば、中国語の（稻）と日本語の「稻」は字体が少し異なるものの、表記も意味も同じではあるが、中国語として使用する際は、（水稻）、（稻子）として使用する。

②元々日本語にしかない語彙。

例：寿司、刺身、相撲、演歌

このような語彙は日本独特の語彙であり、中国語では対応させられる語がなかった。しかし、両国の文化交流に伴い、このような語彙を中国語に翻訳する際、直接日本語を利用することが増えてきたため、そのまま通用する。従って「寿司」や「相撲」などは、よく見かける上に、みなその意味がわかる。しかし一方、「演歌」などは日本文化に詳しくない人にとっては理解できない語彙だろう。

③固有名詞。

例：読売新聞、表参道、鑑真和上

このような専用名詞は地名と人名が多い。この種の語彙は本稿の目的にそぐわないため除外した。

分析結果と考察

『新編日本語』中に記載された日中同形語の全体的な比率から見れば、S語が最も多く、総量の70%を超えている。次はO語（約17%）で、D語の数はより少なく8%だった。

	語数の総量	同形語	S語	O語	D語
第一冊	1245	323	221	61	41
第二冊	1390	389	280	78	31
第三冊	1280	373	289	51	33
第四冊	1275	407	314	67	26
合計	5190	1492	1104	257	131

次に、O語を見ると、Aタイプの数は一桁で少なく、合計19語しかなかった。残りのB、C、D三種類の数はほぼ同様に、それぞれ83、79、71語だった。

	A	B	C	D
第一冊	5	19	16	14
第二冊	6	25	27	20
第三冊	3	19	15	18
第四冊	5	20	21	24
合計	19	83	79	76

以上の二つの統計によると、教材の中の日中同形語の数はかなり多く、総量の28%を超えている。O語の数はそれほど多くないが、257語もあった。

教材中の語彙について、『新編日本語』では全て以下のような形で説明している。

例：応用（名・他サ）一应用
 [日本語語彙（品詞）一中国語の訳語]



*『新編日本語』第二冊第九課の語彙リストpp.182-183

教材は、語彙を説明する際に必要な要素は全て含んでおり、外来語の場合、その語彙に由来する元の外国語語彙も載せている。全体的に、上と下対応する形で、学習者にとってわかりやすい。しかし、ここでの中国語の訳語は、この語彙の教材の例文の中での意味を表示しているのが一般的で、すべての意味を提示することは少ない。

ここでは、教材にある文「厳しい勝負の世界ですね」にある「勝負」（第二冊 p404）という語彙（本稿のO語の分類法によるとBタイプに属する）を説明する場合を例にして詳しくみていく。

*「勝負」について 『新編日本語』と『日中同形異義語辞典』の説明比較

『新編日本語』	『日中同形異義語辞典』
説明：勝負 <small>しょうぶ</small> (名)-勝負	説明：日 勝負【しょうぶ】 ①勝ち負け。勝敗 ②勝負を争うこと。

例文：厳しい勝負の世界ですね。	例文：日 ①勝負を争う。 勝負あった。 ②正々堂々と勝負する。 両者は実力が伯仲し、長時間にわたって勝負した。 中 なし
-----------------	--

ここでは品詞の表示の妥当性には触れない。『新編日本語』の説明にはただ「勝負（名）- 勝負」とあるのみで、中国人日本語学習者がこの説明を見ると、例文に対する理解という意味では問題はないだろう。勝負（勝負）という語彙は日中両言語とも「勝ち負け、勝敗」の意味を持っている。この例文の中の「勝負」はちょうどこの共通の意味で使用されている。しかし、O語のBタイプに属する「勝負」は日本語にまた別の意味がある一勝負を争うことである。この意味は中国の中では（比賽）という語彙で表す。そのため、ただ「勝負（名）- 勝負」とだけ説明すると、学習者はほかの「勝負を争うこと」の意味を使用する文に出会った時、正しく理解できるかどうか疑問がある。

また、Cタイプの語彙を説明する時も同じく、問題があると考えた。

例えば、「関心」（第二冊 p 194）を説明する時も「勝負」と同じ方法を使用している。

『新編日本語』	『日中同形異義語辞典』
説明：関心(名) - 关心	説明：日 関心【かんしん】 特に心に留めて知ろうとすること。また、その気持ち。 中 关心【guānxīn】 ①日本語に近い ②あれこれとその人のためを思って気を配ること。気にかける。
例文：人々から大きな関心がもたれています。	例文：日 彼は政治に何の関心もない。 この事件に全国の関心が集まっている。 株式に関心を示し始める。 中 ①他很关心国际形势，每天都看许多报纸。 ②关心生病住院的同学，去医院看望。 他是个非常关心别人的人。

「関心」（关心）は日中両言語とも「特に心に留めて知ろうとすること。また、その気持ち」という意味を持っている。しかし、中国語の（关心）はこの意味以外に「あれこれとその人のためを思って気を配ること。気に掛ける」の意味も持っている。そのため、「関心（名）- 关心」とだけ説明すると、学習者は中国母語話者なので、二つの意味のどちらで理解したらいいのか分からないのではないだろうか。仮に中国語の独自の意味で理解すると、例文の真の意味は分

からなくなる。

ここまで教材中の日中同形語を分類し、教材の語彙解釈の不足点（日本語と中国語、どちらの説明不足）を分析検討した。そして、学習者が学習する際の問題点も予想できるようになった。

おわりに

以上の結果から見ると、今回取り上げた日本語教材—『新編日本語』の中では、日中同形語に対する説明に不足する部分があることがわかった。具体的には、まず日中同形語の定義と分類をはっきり載せていないことが挙げられる。学習者が日中同形語の定義もその分類方法もわからぬままに学習していくと、その意味・用法を正しく把握できないのは当然である。また、同形語を説明する際に、意味のずれと用法の違いもはっきり提示していなかった。本稿で分析した例の通り、教科書の中での説明は簡単すぎる。中国人日本語学習者は母語の干渉を受けやすい。彼らにとって最も大切な入門教材の中で同形語の日中区別をうまく説明できていなければ、中上級に至るまで同形語を把握することは難しいだろう。学習者の日中同形語に対する理解は不十分な段階に留まることが予想でき、実際にこのような語彙を使う際に、誤用が生まれやすい。

本稿は、現在中国の大学日本語専攻で使用されている代表的な教材『新編日本語』を分析し、その問題点を明らかにした。そして、分析方法を紹介した上で、本研究の最も重要な研究資料である『新編日本語』1-4冊の中に出てきた日中同形語を整理した。そして、教材中の日中同形語についての説明を考察し、学習者の視点からその妥当性を検討した。分析結果からは、教材中では日中同形語の定義について何も言及されておらず、実際に同形語を説明する際は、中国語訳語をそのまま載せ例文の中で使用されている意味しか反映していないことがわかった。このような説明は学習者にとっては全く不足しており、学習する際に悪影響をもたらす可能性もある。今後同様の教材を作成する際に改善すべきところがあるといえるだろう。

(2017年5月8日受理)

参考文献

- 王静 (2006) 「大学日語專業精讀教材詞匯研究—關於『新編日本語』1-4冊」首屆全國教育教材語言專題學術研討會、162-165
- 王永全、小玉新次郎、許昌福 (2007) 『日中同形異義語辭典』東方書店
- 大河内康憲 (1992) 「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集 (下)』、179-216
- 王萍 (2000) 『現代日漢漢日辭典』外研社
- 郭明輝 他著 (2014) 『日漢同形異義詞詞典』北京語言大學出版社
- 許雪華 (2014) 「日中同形語の量的分析」『関西大学 或問—WAKUMONN』26、113-122
- 周平、陳少芬 (2014) 『新編日本語 (修訂本)』外教社
- 新村出編 (2008) 『広辞苑第六版』岩波書店
- 田中祐輔 (2015) 『現代中国の日本語教育史—大学専攻教育と教科書をめぐって』株式会社国書刊行会
- 潘鈞 (1995) 「中日同形詞詞義差異原因浅析」『日語學習与研究』3、19-23
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
- 呂叔湘、丁声樹 (2008) 『現代漢語辭典』商務印書館